

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号

0160

平成31年度行政事業レビューシート ( 総務省 )									
事業名	危険物事故防止対策の推進			担当部局庁	消防庁	作成責任者			
事業開始年度	平成20年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	危険物保安室	室長 渡辺剛英			
会計区分	一般会計								
根拠法令(具体的な条項も記載)	消防法第3章 等			関係する計画、通知等	危険物等事故防止対策実施要領、危険物等事故防止安全憲章、国土強靱化基本計画、南海トラフ地震防災対策推進基本計画、首都直下型地震緊急対策推進基本計画				
主要政策・施策	科学技術・イノベーション			主要経費	その他の事項経費				
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	危険物施設における火災・流出事故等の防止や被害軽減のための取組を推進し、危険物事故から国民の生命や財産を保護することを目的とする。								
事業概要(5行程度以内。別添可)	近年、危険物施設における火災・流出事故はいまだに高い水準で推移しており、最近においても深刻な人的被害を生じる事故が頻発するなど大きな問題となっている。このような状況を踏まえ、危険物施設に係る事故情報等の把握、業種を超えた事故情報等の共有を図るとともに、危険物等事故防止対策実施要領等を踏まえた事故防止対策を推進し、危険物事故防止に関する国民への普及啓発及び消防機関への助言を行う。								
実施方法	直接実施、委託・請負								
予算額・執行額(単位:百万円)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度要求			
	予算の状況	当初予算	71	65	64	86	141		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
	計	71	65	64	86	141			
	執行額	59	47	56	-	-			
	執行率(%)	83%	72%	88%	-	-			
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	83%	72%	88%	-	-			
平成31・32年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算目	31年度当初予算	32年度要求	主な増減理由					
	消防庁等業務庁費	41	131						
	消防防災技術研究開発業務庁費	9	0						
	諸謝金	2	3						
	職員旅費	2	3						
	委員等旅費	1	2						
	その他	31	2						
	計	86	141						
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標1年度	目標最終年度
	危険物施設に係る事故件数(過去5年間平均)を対前年度比で減少させる	危険物施設に係る事故件数	成果実績	回	573	572	581		
			目標値	回	575	572	571	580	
			達成度	%	100.3	100	101.8		
根拠として用いた統計・データ名(出典)	平成30年中の危険物に係る事故の概要								
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載								チェック	

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	28年度	29年度	30年度	31年度 活動見込	32年度 活動見込
	危険物施設に係る検討会及び連絡会開催回数	活動実績	回	23	21	21		
		当初見込み	回	18	24	24	27	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	28年度	29年度	30年度	31年度 活動見込	32年度 活動見込
	調査研究等の実施回数	活動実績	回	1	1	1		
		当初見込み	回	1	1	1	1	
単位当たりコスト	算出根拠		単位	28年度	29年度	30年度	31年度活動見込	
	事業の執行額 / 検討会等の開催回数	単位当たりコスト	百万円	2.6	2.2	2.7		
		計算式	百万円/回	59/23	47/21	56/21		

政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策	VII. 国民生活と安心安全							
	施策	4. 消防防災体制の充実強化							
	測定指標	定量的指標		単位	28年度	29年度	30年度	中間目標 1年度	目標年度 年度
		危険物施設における事故(震度6以上の地震により発生したものを除く。)の件数(基準・目標年度から起算した過去5年間の平均事故件数)	実績値	件	573	572	581		
			目標値	件	575	572	571	580	
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	危険物施設における事故情報等の把握、業種を超えた事故情報等の共有を図るとともに、危険物等事故防止対策実施要領等を踏まえた事故防止対策を推進し、危険物事故防止に関する国民への普及啓発及び消防機関への助言を行う。								
	【成果指標(アウトカム)】 ・危険物施設に係る事故件数:571件(平成30年度)								
	【活動指標(アウトプット)】 ・危険物施設に係る検討会及び連絡会開催回数:21回(平成30年度) ・調査研究等の実施件数:1件(平成30年度)								
	【施策目標等の達成又は測定指標の推移に対する寄与の内容】 危険物施設に係る事故情報等の把握、業種を超えた事故情報等の共有を図るとともに、危険物事故防止に関する国民への普及啓発及び消防機関への助言を行うことにより、同種事故の発生の防止が図られ危険物事故対策を推進することに寄与する。								

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	当該事業は、消防庁が所管する法令等に基づき、全国的に危険物事故の防止、被害軽減を図るために必要な事業であり、国費の支弁にて消防庁自らが実施する優先度の高い事業である。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	同上
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	同上
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	・契約先の調達に当たっては、一般競争入札等を適切に実施することで、調達コストの低減化に努めている。 ・なお、本事業に係る業務の請負契約の一部においては、危険物に関する高度な専門知識や特殊な施設等を必要とするため、結果として一者応札となったものもあるが、これらについて個々に検証を行い、さらなる仕様内容の改善や十分な公告期間及び履行期間の確保等につとめている。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	当該事業の実施に当たっては、検討会及び調査研究のテーマについて真に必要なテーマに厳選し設定している。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-		
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	各種成果物は、「危険物事故防止アクションプラン(H28から「危険物等事故防止対策実施要領」)」や「危険物施設の震災対策ガイドライン」等として全国の消防本部、関係事業初等に周知し、事故防止安全対策として広く活用されており、事故情報の収集及び分析、事故防止の普及啓発等の各種取組が実施されている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	各種成果物は、「危険物事故防止アクションプラン(H28から「危険物等事故防止対策実施要領」)」や「危険物施設の震災対策ガイドライン」等として全国の消防本部、関係事業初等に周知し、事故防止安全対策として広く活用されており、事故情報の収集及び分析、事故防止の普及啓発等の各種取組が実施されている。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	同上
点検・改善結果	点検結果	消防機関、学識経験者、関係業界団体等の関係者で構成する「危険物事故防止情報連絡会」において、毎年策定される「危険物等事故防止対策実施要領」をはじめとして、各種事業の成果物は、各都道府県・消防本部・関係事業所等において安全確保方策として広く活用されている。	
	改善の方向性	事故件数を減少させるためには、「業種を超えた事故の情報の共有」を図るとともに、事業者が「危険物等事故防止安全憲章」及び「石油コンビナート等における災害防止対策検討関係省庁連絡会議報告書」の内容や東日本大震災等の状況を踏まえ、自らの事態、体制等に応じた安全確保方策を確立することが重要であるため、以下の事項を重点事項としてさらに推進していく。 ①保安教育の充実による人材育成・技術の伝承 ②想定されるすべてのリスクに対する適時・適切な取組 ③企業全体の安全確保に向けた体制づくり ④地震・津波対策の推進	

**外部有識者の所見**

外部有識者による点検の対象外

**行政事業レビュー推進チームの所見**

現状  
通り

事業の効率的な予算執行に努め、引き続き所要額を計上

**所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況**

現状  
通り

事業の効率的な予算執行に努め、引き続き所要額を計上

**備考**

**関連する過去のレビューシートの事業番号**

平成22年度	176-1	平成23年度	0170	平成24年度	0170	平成25年度	0167
平成26年度	0159	平成27年度	0155	平成28年度	0150	平成29年度	0154
平成30年度	総務省 ( 0159 )						

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

消防庁  
56百万円

A【一般競争入札(最低価格)】

民間業者 3団体  
公益法人等 1団体  
金額 7百万円

・調査・分析委託、会議開催運営  
等の役務の提供等

B【一般競争入札(総合評価)】

民間業者 3団体  
公益法人等 1団体  
金額 38百万円

・調査・分析委託、会議開催運営  
等の役務の提供等

C【随意契約(少額)】

民間業者 5団体  
公益法人等 1団体  
金額 4百万円

・印刷製本、物品の購入等  
・検討会等の会場借上料  
・調査・分析委託等の役務の提供等

D【その他】

金額 7百万円

・諸謝金、旅費等

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位:百万円)

費目・用途 （「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載）	A.(一社)日本海事検定協会			B.危険物保安技術協会		
	費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
	雑役務費	* 消防活動阻害物質の候補物質の加熱発生ガス等分析業務	2	雑役務費	平成30年度危険物施設の長期使用に係る調査分析業務	6
				雑役務費	平成30年度屋外貯蔵タンクの検査技術の高度化に係る検討解析業務	8
				雑役務費	屋外貯蔵タンクの浮き屋根の安全対策に関する調査検討業務に係る請負	7
			雑役務費	危険物施設の泡消火設備における合成樹脂配管の使用等に関する調査検討業務	3	
計		2	計		24	
	C.西菱電気(株)東京支社			D.個人		
	費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
雑役務費		「危険物災害等情報支援システムの静的コンテンツ更新業務	1	職員旅費	旅費	0.5
計		1	計		0.5	
費目・用途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載						チェック

### 支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	(一社)日本海事検定協会	9010005016718	消防活動阻害物質の候補物質の加熱発生ガス等分析業務	2	一般競争契約 (最低価格)	2	96.5%	
2	危険物保安技術協会	6010405002428	危険物に係る火災及び流出事故の精査業務	2	一般競争契約 (最低価格)	1	99%	
3	(株)DMI	6020001055770	危険物に係る事故事例(平成29年)火災編・流出編データ処理等業務	2	一般競争契約 (最低価格)	1	93.7%	
4	(株)住化分析センター	2120001026468	火災危険性を有するおそれのある物質に係る危険物確認試験等業務	1	一般競争契約 (最低価格)	3	51.1%	

## B

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	危険物保安技術協会	6010405002428	平成30年度屋外貯蔵タンクの検査技術の高度化に係る検討解析業務	8	一般競争契約 (総合評価)	1	95.6%	
2	(株)三菱ケミカルリサーチ	5010001022137	危険物施設における火災及び流出事故の調査分析業務	7	一般競争契約 (総合評価)	1	99%	
3	危険物保安技術協会	6010405002428	屋外貯蔵タンクの浮き屋根の安全対策に関する調査検討業務に係る請負	7	一般競争契約 (総合評価)	1	94.1%	
4	危険物保安技術協会	6010405002428	平成30年度危険物施設の長期使用に係る調査分析業務	6	一般競争契約 (総合評価)	2	44.6%	
5	アドバンスソフト(株)	1013401000046	輻射熱計算ソフトウェアの作成業務に係る請負	5	一般競争契約 (総合評価)	2	87.7%	
6	危険物保安技術協会	6010405002428	危険物施設の泡消火設備における合成樹脂配管の使用等に関する調査検討業務	3	一般競争契約 (総合評価)	1	96.5%	
7	(株)三菱ケミカルリサーチ	5010001022137	火災危険性を有するおそれのある物質等に関する調査業務の請負に関する契約	2	一般競争契約 (総合評価)	2	72.9%	

## C

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	西菱電機(株)東京支社	1140001078509	「危険物災害等情報支援システムの静的コンテンツ更新業務	1	随意契約 (少額)	-	-	
2	(一財)全国危険物安全協会	5010405000366	保安講習の実効性向上に向けた事故事例集等の活用方策に係る調査分析業務	1	随意契約 (少額)	-	-	
3	(株)住化分析センター	2120001026468	危険物データベース登録物品に係る性状確認業務	1	随意契約 (少額)	-	-	
4	(株)アライ印刷	6010901000777	平成29年度危険物規制事務調査に係るデータ処理等業務	0.5	随意契約 (少額)	-	-	
5	(株)北斗システム	8020001032677	危険物データベース登録用データの作成業務の請負	0.2	随意契約 (少額)	-	-	
6	(株)大和メディアクリエイティブ	7011101012736	危険物流出等の事故原因調査証の作成	0	随意契約 (少額)	-	-	

D

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	個人A		旅費	0.5				
2	個人B		旅費	0.3				
3	個人C		旅費	0.3				
4	個人D		旅費	0.3				
5	個人E		旅費	0.2				
6	個人F		旅費	0.1				
7	個人G		旅費	0.1				
8	個人H		旅費	0.1				
9	個人I		旅費	0.1				
10	個人J		旅費	0.1				